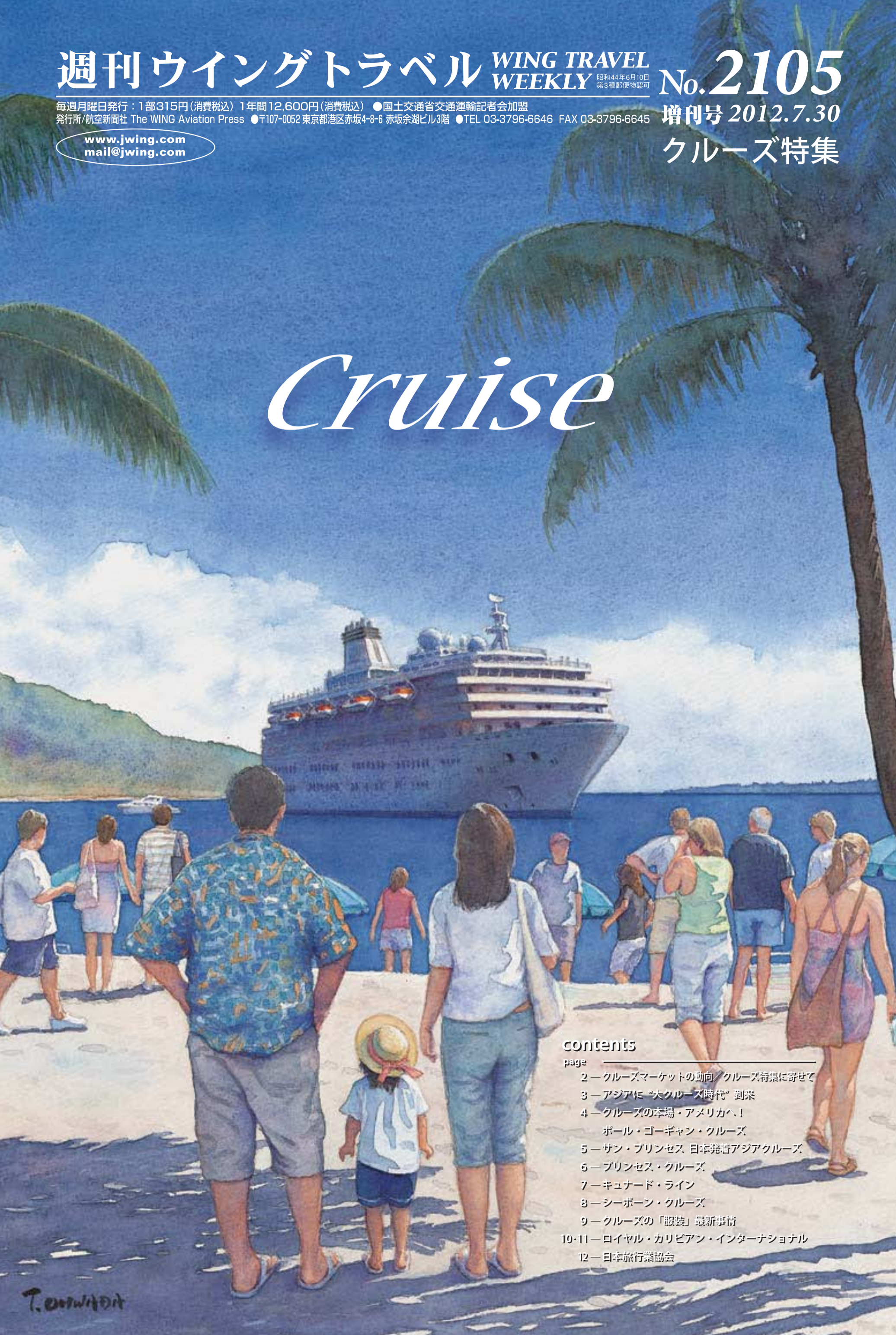


www.jwing.com
mail@jwing.com

Cruise



contents

page	
2	クルーズマーケットの動向/クルーズ特集に寄せて
3	アジアに“大クルーズ時代”到来
4	クルーズの本場・アメリカへ! ボール・ゴージャン・クルーズ
5	サン・プリンセス 日本発着アジアクルーズ
6	プリンセス・クルーズ
7	キューナード・ライン
8	シーボーン・クルーズ
9	クルーズの「服装」最新事情
10-11	ロイヤル・カリビアン・インターナショナル
12	日本旅行業協会



クルーズ特集2012 ● 総論

日本のクルーズ、新時代幕開けへ 「船で行く海外旅行」がより身近に

日本のクルーズ市場を飛躍的に拡大させるビッグ・チャンスが巡ってきた。米国クルーズ大手のプリンセス・クルーズがいよいよ「日本発着」に乗り出し、同じく米クルーズ大手のロイヤル・カリビアン・インターナショナルは13万トクラスの超大型客船を日本に配船する。観光庁など国もクルーズ船の受け入れ拡大に向けた環境整備を本格化する。にわかには活況を見せ始めた日本のクルーズ事情。海外旅行は、船で行く時代がやってきた。

世界の市場は引き続き拡大 日本の浸透率は“0.14%”

世界のクルーズ市場は引き続き大きな成長を見せている。客船会社の多くが加盟する国際クルーズ客船協会（CLIA）のまとめによると、2011年の世界のクルーズ人口は約1636万人（前年比10%増）に達し、1995年から16年連続の前年比プラスを記録した。

成長はアメリカやカナダなどの北米市場だけでなく、イギリスやドイツなどの

ヨーロッパ市場、オーストラリアなどのオセアニア市場が急速に拡大。旺盛な需要を背景に、クルーズ各社は新造船の建造を急ピッチで進め、サービスや設備の向上にしのぎを削っている。客船を配置するエリアもアジアや中東、アフリカなど世界各地に拡大。クルーズ市場の拡大はとどまるところを知らない。

日本のクルーズ市場も着実に広がりを見せている。国土交通省海事局のまとめによれば、2011年の日本人クルーズ人口は18万6500人（前年比1.0%減）。東日本大震災の影響もあり、全体の数字は前年比

マイナスとなったが、外国船社が運航する客船の乗船数に限っては、前年より0.6%増の8万7400人とプラスで着地した。

前述のCLIAでは、国別に総人口あたりのクルーズ経験者を算出した“クルーズ浸透率”を発表しているが、2010年実績でトップはアメリカの3.26%、2位はイギリスの2.51%、3位はオーストラリアの2.10%だった。同じ計算式を日本に当てはめてみると、浸透率はわずか0.14%。日本の成長余地が大きいことは言うまでもない。

2013年は日本発着が多数展開 新しい顧客層の掘り起こし期待

日本のクルーズ市場は、外国の船会社などから長らく“眠れる巨人”と言われて続けてきた。1億人以上の人口を抱え、これだけ海外旅行が一般化した中でも、クルーズの市場は年間20万人の壁をなかなか突破できずにいた。

この壁を打ち破ろうと、2010年に外国船社としては初めて、ロイヤル・カリビアン社が横浜港からの日本発着クルーズを実施。飛行機に乗らずに、かつ1泊1万円以下で海外旅行ができるという、新しい旅のスタイルを日本に持ち込んだ。

そして、目ざめ始めた“巨人”を本格的に覚醒させようというのが、プリンセス・クルーズが2013年に計画している日本発着クルーズだ。来年4月から7月までの4ヵ月間、7万7000トンの大型客船「サン・プリンセス」を日本に配船。横浜発着（一部神戸着/発）で7コース・計9本のクルーズを展開する。これら一連の日本発着で延べ1万8000人を集客する計画だ。

プリンセスの日本発着実施にあたり、親会社にあたるカーニバル・コーポレーション&plcでは、直営の日本法人として「カーニバル・ジャパン」を設立。従来よ

り営業・販売体制を大幅に強化し、日本市場の拡大に本腰を入れる。

また、日本発着を先駆けたロイヤル・カリビアン社もアジア展開を強化する。“洋上のアミューズメントパーク”とも称される13万ト級の超大型客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」をアジアに配船。2013年には同船による日本発着も計画し、子供連れのファミリーなど新しい顧客層の掘り起こしを狙う。

客船受け入れの整備本格化 官民一体でマーケット拡大へ

クルーズは、日本人の海外旅行だけでなく、外国人の訪日旅行（インバウンド）拡大にも大きく貢献する。

観光庁は、今後5年間の国の観光施策を定める「観光立国推進基本計画」（2012年3月30日閣議決定）で、外国クルーズの日本寄港促進に向けて港湾の旅客ターミナル整備や、両替・案内などのサービス機能充実に取り組むことを盛り込んだ。

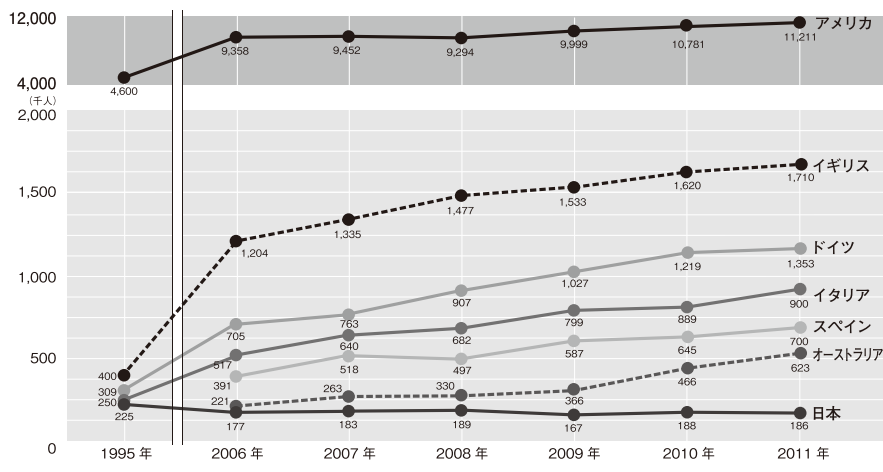
さらに法務省では、訪日外国人の受け入れ拡大に向けて出入国手続きの迅速化や合理化を図るため、関係省庁や有識者を交えた検討会議を設置。クルーズ船入港時の事前船上審査の実施や、空港で導入している自動化ゲートを海港にも設置することなどを検討している。

業界団体である日本旅行業協会（JATA）も海外旅行促進の一環として、旅行会社向けにクルーズセミナーを開催したり、9月に開かれる「JATA旅博」会場内にクルーズコーナーを設けたりするなど、業界内外への働きかけを強めている。

まさに官民一体で動き出したクルーズ市場の拡大。眠れる巨人の目ざめは間もなくだ。

世界のクルーズ人口の推移

(単位：千人)



出典：CLIA, ECC, ICCA, 国土交通省海事局

ウイングトラベル・クルーズ特集に寄せて.....



観光庁
長官 井手 憲文

観光に関する国の取組みについては、2012年度から2016年度までの計画として、「観光立国推進基本計画」を策定し、震災からの復興など4つの基本方針に基づいた観光施策を推進しているところであり、個人的にも、観光分野の成長に力を尽く

したいと考えています。

こうした中、クルーズについては、世界的なクルーズ需要の拡大に伴うクルーズ人口の増加や、アジアにおいては、特に中国においてクルーズ文化が根付き始めており、中国発着クルーズ船の日本への寄港回数増加などの現状があります。また、日本初寄港となる旅客定員約3500人の「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」が、今年6月に博多港に寄港した際の報道によると、買い物に使う費用は1人当たり4万円ほどだということで、大きな経済効果がありました。このような点を考慮し、中国などアジアからのクルーズ需要を取り込み、インバウンドの拡大を図るため、クルーズ船の寄港促進に向けた取組みが重要であると認識しています。

「観光立国推進基本計画」では、中国などからの訪日旅行者の増加に向けて、クルーズ船寄港促進のため、ソフト・ハードの両面で整備を推進する旨を定めているところであり、観光庁としては、港湾局と連携し、港の整備、観光地の受け入れ体制およびPRを効果的に行っていくことにより、クルーズ船寄港地の拡大に努めていく方針です。

今年度は、クルーズ船の寄港回数が過去最多となる約450回になる見通しであり、これまで、ビジット・ジャパン事業を実施し、外国への訪日PRを継続して行ってきた成果が着実に現れています。

今後関係各所と連携し、引き続き既存事業を実施するとともに、これまで以上に具体的な訪日プロモーション活動を展開してまいります。やがて、将来的には、カリブ海のように何十万トンの客船がいくつも泊まっている光景を、日本の海でも実現したいと考えております。



一般社団法人
日本旅行業協会
会長 菊間 潤吾

今夏の海外渡航者数が過去最高になると見込まれるなど、日本の海外旅行市場が勢いを取り戻しつつある中、クルーズ客船各社がアジアへの配船を増やし、特に日本市場に大きな関心を示している現状において、今まで以上にクルーズ旅行の人気の高

まり、身近なものになっていくことは間違いありません。

クルーズ旅行の魅力は、「クルーズでしか体験できない非日常空間」や「目覚めれば、新しい街との出会い」、「ゆったりと流れる時間」など、他の旅行にない感動を得ることができることです。クルーズ旅行のリピーターになる方は多く、お客さまにとっても、旅行会社にとっても、大変魅力のある、価値ある旅のスタイルと言えます。

今後、いままでも以上に数多くのクルーズ船が配船されることが予想される中、旅行会社として、フライ&クルーズはもちろん、ショートクルーズ、テーマクルーズなど、リピーターから初めてのお客様、シニア、ファミリー、ハネムーンから団体に至るまで、幅広い層に対して、新しい旅のスタイルとして、クルーズの特性を存分に活かした商品をお客さまに提案してまいります。そのためにも、JATAのクルーズ旅行推進部会を中心として、業界全体のスキルアップと、クルーズ旅行を取り扱う旅行会社の増加に向けて、事業を展開していきたいと考えております。

9月21日から開催のJATA旅博におきましても、「クルーズの旅」コーナーは昨年の2倍以上の規模で展開されるなど、日本の旅行市場への期待は高いものがあります。旅行会社としても、お客様のライフタイムバリューを高める商品としてクルーズ商品は欠かせません。

新興国の交流人口が拡大し、クルーズにおいても国際競争はいつそう厳しくなると思われますが、JATAは、クルーズ会社はもちろん、観光庁をはじめとする行政機関、観光局などの関係機関・団体、企業の皆様からのご協力を頂き、クルーズ旅行市場拡大に努めてまいります。

クルーズ特集 / 2012

アジアに“大クルーズ時代”到来 市場拡大の好機に

アジアに吹いてきた新しいクルーズ旋風。外国船社が次々とアジアへ客船を配船し、2013年は複数の船会社が日本発着クルーズを実施する計画だ。日本人にとってのクルーズは、もはや遠いものではなく、気軽に参加できる旅行形態になろうとしている。アジア・クルーズの歴史を振り返ってみるとともに、ここ数年の動向を紹介する。【文・写真=上田寿美子】

日本寄港のクルーズは3種類

近年、アジアでもクルーズが盛んになってきた。その一画をなす日本にも、2012年の上半期は、アザマラ・クラブ・クルーズ、キュナード・ライン、クラシック・インターナショナル、クリスタル・クルーズ、コスタクルーズ、サガ・クルーズ、シルバークエスト・クルーズ、ハーモニー・クルーズ、フェニックスライゼン、プリンセス・クルーズ、ホーランド・アメリカ・ライン、ロイヤル・カリビアン・インターナショナル、P&Oクルーズ等の、外国船社の客船が多数寄港し、日本各地の港を賑わせている。

日本に寄港する外国客船をおおまかに分けると、次の3種類となる。

【1】乗客の対象はおもに外国人で、不定期の世界一周や、アジアクルーズなどの途中で、日本に立ち寄るもの。

【2】定期的に中国発着などのアジアクルーズを行う中で、途中で日本に立ち寄るもの。

【3】日本人を主な乗客の対象として、日本発着のクルーズを行うもの。

このように異なる3つの形態であるが、すべてが日本人のクルーズ市場拡大につながっている。

寄港地としての魅力と課題

さて、上記の【1】に該当するクルーズとして、2012年は「アザマラクエスト」、「サガルビー」、「シルバークエスト」に乗りしたが、いずれも欧米やオーストラリアの乗客が多数を占めていた。彼らと話してわかったことは、数あるアジアの港の中でも、日本の寄港地をとても楽しみにしていて、良く調べてきていること。船のショアエクスカージョン(寄港地観光)に参加する人もいるが、自力で調べた情報を頼りに、個人で日本の各寄港地を散策し、帰ってきて土産話を聞かせる人が多い。これはインターネットが発達した最近の傾向だ。

その一方で彼らは、日本ではなかなか英語が通じないことを不安の材料として



釜山港で出会った学生ボランティア。目立つよう赤いベストを着用している。

持っている。韓国、台湾、中国の港では地元の学生らが、目印のベストなどを付けて『英語ができる学生ボランティア』として活躍している。彼らの英語レベルはさまざまだが、日本でも取り入れられそうな要素でもある。若い学生が学んだ英語を学び、クルーズを知る場にもなる。

そして、もう一つのネックは日本入国の際、CIQ(税関、入国、検疫)審査に時間がかかること。韓国の釜山や済州島などでは、クルーズで入国する際には対面審査を行わない場合が多いことから、余計に日本と他国との違いを比べられてしまう。それでも最近では、対面審査の時に

顔写真撮影を省くなどの改善がされているようだが、乗船客や船会社側からは一層の迅速化が求められている。

課題点を改善すれば、日本はさらに寄港地としての魅力を増すだろう。そして、客船の入港時におこなわれる太鼓や音楽演奏、郷土芸能、幼稚園児のお遊戯など、歓送迎イベントは外国人にも好評だ。



日本の伝統舞踊などを紹介する歓迎セレモニーは外国人に評判が高い。

日本を訪れるクルーズでは、日本に関心が高い外国人客が多いことから、乗客同士の輪に入りやすい。また、あらかじめ海外の人と共に日本を訪れてみると、住んでいても見えないことや、忘れていたことを気づかせてくれる。日本に寄港するクルーズを、日本人が日本を再発見できる旅として売り込むのも、クルーズの販売拡大を図るうえで一つの手になるだろう。

アジア拡大の歩みと将来展望

ところで、アジアでクルーズが盛んになったのはいつごろからだろうか。1990年、日本を除くアジアのクルーズ人口は約7万5000人だったが、1995年には45万人に急増した。これは、1993年にスタークルーズ社が創業したことが大きく寄与した。

一方、10年ほど前までは、海外の大手クルーズ会社の経営陣にアジアへの計画を尋ねても「いつの日か」的な回答が多く、同時に「インフラと需要が整えられれば」というアジアへの要求を語る幹部が多かった。そして、当時ほとんどの海外船社が描いたアジア構想は、経済力があり旅行好きな印象の日本人がアジアクルーズの中心になることだった。

その後、2006年にコスタクルーズ、2008年にロイヤル・カリビアン・インターナショナルなどが本格的にアジアクルーズに乗り出し、いよいよ欧米を拠点にするクルーズ会社によるアジアの定期クルーズが始まった。これが前述の【2】に相当するもの。

ところが、実際にアジアに配船してみると、かえって日本を除くアジアの国々の強さが際立った。とくに中国人のクルーズ市場の急速な拡大は驚異的で、2010年にク



アジアも10万トン超の客船が定点就航する時代に。写真は「ロイヤル・カリビアン」が7月に神戸港へ初入港した際のよう。



©プリンセス・クルーズ

2013年春から日本発着クルーズに就航する「サン・プリンセス」

クルーズ船で中国から出国した旅行客は約79万人に達し、逆にクルーズ船で中国を訪れた旅行客も46万人を超えたという。

クルーズは地域活性の切り札

さらに、アジアの中でも熱心にクルーズに取り組んでいる国や地域は、先んじて海外のクルーズ動向を分析し、巨大客船化の潮流もつかみ、港湾整備などの整備を迅速に進めた。

2011年には上海、2012年にはシンガポール、2013年には香港がそれぞれ新しいクルーズターミナルをオープンし、現時点で世界最大の22万総トンクラスを受け入れる港湾施設を新設している。今年5月26日には、その一つであるシンガポールで「ザ・マリーナ・ベイ・クルーズ・センター・シンガポール」を、ロイヤル・カリビアン社のボイジャー・オブ・ザ・シーズ(13万7276総トン)の初寄港に合わせオープン。同社のアダム・ゴールドスティン社長兼CEOも現地に駆けつけ、盛大なキックオフイベントが行われた。



シンガポールにオープンした新客船ターミナル。

さらに、これらの国や地域は、客船誘致をした後、それに見合うクルーズ客をすぐに集客できる力とスピードも持っていて、地元のクルーズ人口を大きく拡大させた。インバウンドとアウトバウンドの相乗効果で、さらなるクルーズ市場の成長が見込まれている。

他のアジア諸国が急成長するなか、日本にとっての救いは、アジアの数ある寄港地の中でも日本の寄港地の人気が高い点だ。

これは、毎週のように数千人の外国客が訪れ、観光、飲食、買い物等で多額の金額をその地域にもたらす絶好の機会にもなる。博多港は今年も70回以上の外国客船の寄港が予定され、日本の代表的なクルーズ寄港地になっているが、福岡市経済振興局によれば、外国人船客1人当たりの平均消費額は3万3000円。とくに中国人の平均消費額が大きいという。これは、日本政府観光局(JNTO)が算出した訪日外国人の1日あたり平均消費額の2万1300円(2007-2008年版)を大きく上回る。

クルーズで訪れる人の消費額が大きいのは、たくさん買い込んで飛行機のように荷物の重量制限がないからだとか。

船が大きくなれば、一度に運んでくる乗客はさらに増える。雇用も含め、地域にもたらす経済効果は大きい。日本も、現在のクルーズ船は10万総トン以上が当たり前という海外の現実を認識し、大型客船の受け入れ基盤を整え、すでに到来

しているアジアクルーズ時代に乗り遅れない体制づくりが必要になっている。

国内旅行のように船旅を楽しむ

前述の【3】に該当する、外国客船による日本人対象の日本発着という新型クルーズは、2010年にロイヤル・カリビアン・インターナショナルが客船「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」を使い、横浜発着クルーズとして先鞭をつけた。飛行機に乗らず海外へ行ける気軽さ、船内新聞やメニューの日本語訳、寿司など和食の提供、日本人コーディネーターの乗船といったメリットを打ち出し、さらに手頃な価格を実現したことで、同年の優れたクルーズ企画を表彰する「クルーズ・オブ・ザ・イヤー」のグランプリを受賞した。

同社は今年、1999年の建造当時で世界最大の客船として話題を呼んだ「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」をアジアに配船。2013年には、このスーパーメガシップによる日本発着クルーズを計画中だ。さらに来年6月には、姉妹船の「マリーナ・オブ・ザ・シーズ」もアジアに投入し、13万総トンクラスの2隻体制をとる予定だ。

そして今年3月に大きな話題を呼んだのが、世界最大のクルーズ企業であるカーニバル・コーポレーションによる日本法人「カーニバル・ジャパン」の設立と、プリンセス・クルーズの客船「サン・プリンセス」による「ジャパン・ホーム・ポート・クルージング」の発表だ。



今年3月に開かれたカーニバル・ジャパンの設立発表会。多くの旅行会社や報道関係者が集まり、期待と関心の高さを示した。

来年の4月～7月に、横浜または神戸発の7コース(9航海、延べ泊数87泊)のクルーズを展開。今年3月行われた日本発着クルーズの発表会には、プリンセス社のアラン・バクルー社長兼CEOも来日し、この新企画に寄せる強い意気込みを示した。これらのクルーズでは乗客の大半を日本人が占めると予想し、外国客船に乗って日本の祭り巡りや、名湯巡りをするといったユニークなコースを取り揃えた。

さらに、乗船料金が1泊当たり1万円代～となっており、これまでの高額で敷居の高いクルーズイメージを覆す良いチャンスになる。

いまや、海外の船社は新しいクルーズ海域としてアジアに注目している。2013年は、外国客船のアジア・クルーズが新しい日本市場拡大と新顧客を生み出すキーワードとなりそうだ。

日本からアメリカへ新たな航空路線が続々と就航し、アメリカ発着のクルーズの選択肢がさらに広がった。日本と新たに結ばれるボストン、サンディエゴ、シアトルは、アラスカやメキシコといった魅力的なクルーズエリアへの発着地。また、羽田空港からアメリカへ向かうフライトが登場したことで、クルーズが多く発着するフロリダなどへのアクセスがより便利になった。日米間の航空路線の充実で、本場アメリカでのクルーズがより身近になっている。

クルーズの本場・アメリカへ! 日米間の新路線開設が続々、 アクセスがより便利に

カナダ方面への玄関口・ボストン

日本航空(JAL)は最新鋭機のボーイング787型機を使い、今年4月22日から成田-ボストン線に週7便で就航した。ボストンは、アメリカ発祥の地として多彩な観光素材が揃う土地でもあるが、アメリカ東海岸からニューイングランドやカナダ方面に向かうクルーズの拠点でもある。

ボストンのクルーズターミナルは、JAL便が発着するローガン国際空港から車で10分程度の場所に位置し、ボストンのダウンタウンからも同程度の時間でアクセスすることができる。

カナダ方面へのクルーズの目玉は「秋の紅葉クルーズ」。カナダ最古の街セント・ジョンズ、美港として知られるハリファックスなどへの寄港が組まれており、紅葉で色づくカナダの大自然を体験することができる。

JALのもう一つのアメリカ新路線、西海岸のサンディエゴも注目の都市だ。JALは成田-サンディエゴ線を2012年12月2日に就航することを決定、当初は週4便で運航を始め、将来的には週7便に増便すること

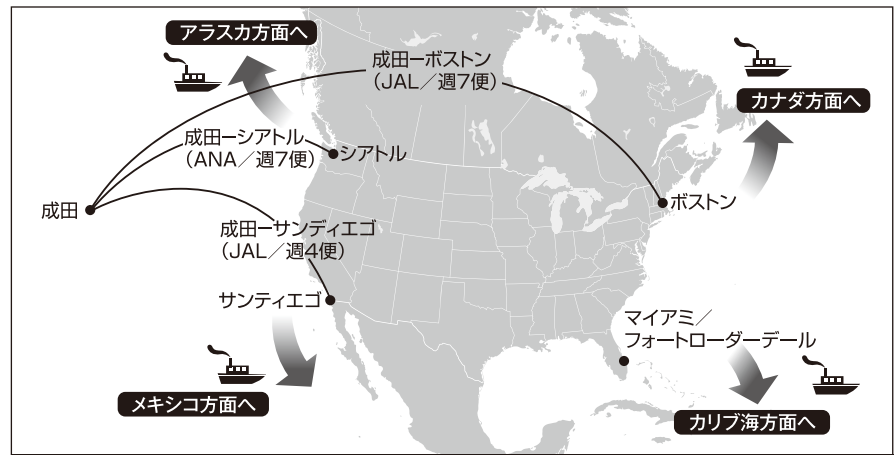
も計画している。アメリカ西海岸の南端に位置するサンディエゴは、太平洋沿岸を南下するメキシコ・クルーズ(メキシカンリビエラ)の発着地。また、サンディエゴ発着で2週間程度のパナマ運河通過クルーズを実施している船会社もあり、ユニークなクルーズ体験ができる。

サンディエゴのクルーズターミナルは、同地の国際空港から約5キロメートルの距離に位置し、車で10~15分程度。市内まで徒歩で行くこともできる。

人気のアラスカへはシアトルから

全日本空輸(ANA)が今年7月25日から週7便で就航した成田-シアトル線もクルーズでの利用価値が高い。シアトルは日本人に人気の高いアラスカ・クルーズが発着する場所。就航開始後の夏の繁忙期は大型のボーイング777型機で運航するが、その後は最新鋭機のボーイング787型機を投入する予定だ。

シアトルのクルーズターミナルは、同地の



タコマ国際空港から車で約30分の距離。西海岸の拠点港だけに複数の接岸地があり、クルーズ会社によって利用する港が異なるので利用する際には注意が必要。

アラスカは世界でも人気のクルーズエリアだけに、シアトル発着のクルーズは年間200本以上におよぶという。その大半が7月~9月の夏に集中しており、毎週末は多くの乗船客で賑わう。

JALとANAが運航する日米間の新規路線は、いずれもボーイング787型機を投入する点にも注目。機内の与圧が高められていたり、湿度が高められていたりするなど、従来機より快適性が大幅に向上している。

羽田就航でカリブ海がより身近に

日系航空会社の新規路線だけでなく、アメリカ系航空会社が就航した羽田空港発着の新路線にも注目したい。デルタ航空は今年4月から羽田-デトロイト線を週7便で運航。アメリカン航空も6月から羽田-ニューヨーク(JFK)線の運航を開始した。

羽田発のアメリカ路線で最大のポイント



は、デトロイト、またはニューヨークへの到着時間が早朝であること。そこから乗り継げば、クルーズの主要発着地であるフロリダ州のマイアミやフォートローダーデールへ午前中に到着することができる。また、帰りは現地午後発で羽田線に乗り継げるため、マイアミなどで前後泊のホテルを確保する必要がなくなった。

カリブ海は最新鋭の客船が就航し、地上のツアーではなかなか行けない魅惑の島々があるエリア。美しい海をめぐる夢のようなクルーズが、より身近になっている。

ポール・ゴーギャン・クルーズ Paul Gauguin Cruises



記念日は地上の楽園タヒチでクルーズを 夢のような日々を「ポール・ゴーギャン」で

全室オーシャンビューの客室からエメラルドグリーンを眺め、ミシュラン2つ星のシェフが監修したメニューをいただき、きめ細やかなサービスを受けながら過ごす日々。ゴーギャンが思い描いた楽園は「ポール・ゴーギャン」の船上にあった。

美しい風景の中、リラックスして過ごす

最後の楽園タヒチ。首都のあるタヒチ島をはじめボラボラ島、モーレア島、ランギロア島など、個性的な島々を巡るクルーズを10年以上にわたって行っているのが、ラグジュアリー・クルーズ客船「ポール・ゴーギャン」だ。乗客定員332名に対して、乗組員

数は217名。つまり乗客1.5名に対して乗組員1名が対応するという、世界最高水準のサービス比率を誇る。熟練のクルーが提供するきめ細やかなサービスは、他では経験できない至極のクルーズ・パカンスを約束してくれるだろう。しかし、だからといって堅苦しさとは無縁で、船内はエレガント・カジュアルと呼ばれる肩の凝らない雰囲気に満ちている。「タヒチで一番」との定評のあるポール・ゴーギャンのレストランでいただくワイン

からチップ、マリンスポーツなどの代金がすべて含まれたオール・インクルーシブのクルーズ代金を採用しているため、船上では余計な気苦労もいらない。

また「ポール・ゴーギャン」では、ハネムーンや結婚記念日、誕生日などをタヒチアン・スタイルで楽しんでもらえるよう、各種プランを用意している。例えばハネムーンにはシャンパン・ボトルのプレゼントや、ル・ゴギンズ(タヒチアン・ダンサー)による祝福のパフォーマンスなどを無料で提供し



ている。さらにル・ゴギンズから学ぶレイ作りなど、タヒチならではのカルチャーイベントも素敵な思い出になるだろう。

クルーズに加えて水上コテージに宿泊するプランなども用意しているので、人生の節目となる記念日を「ポール・ゴーギャン」の船上で過ごしてみることをお勧めしたい。



フレンチ・ポリネシアを周年運航する唯一のラグジュアリー船

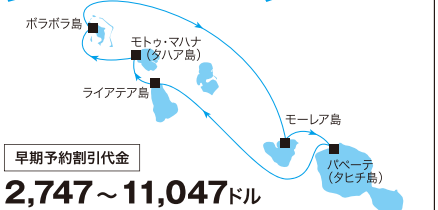
全室オーシャンビュー、追加料金がほとんどかからないオール・インクルーシブ料金。快適なクルーズライフをお届けする「ポール・ゴーギャン」がタヒチの美しい島々へと誘います。

ポール*ゴーギャンで憧れの タヒチへ

タヒチとソシエテ諸島 8日間

周年運航(毎週土曜発) ※特定日を除く

日次	寄港地	入港	出港
1 土	パペーテ(タヒチ島)	ソシエテ諸島	午後乗船 22:00
2 日	ライアテア島	ソシエテ諸島	11:00 18:00
3 月	モトゥ・マハナ(タハア島)	ソシエテ諸島	9:00 17:00
4 火	ボラボラ島	ソシエテ諸島	8:00 船中泊*
5 水			18:00
6 木	モーレア島	ソシエテ諸島	8:00 船中泊
7 金			17:00
8 土	パペーテ(タヒチ島)	ソシエテ諸島	19:30 午前下船



総合パッケージをご用意しております。ご希望の方は各旅行会社または当社までご請求ください。



ポール・ゴーギャン・クルーズ日本地区販売総代理店 株式会社クルーズ パッケージ
〒104-0061 東京都中央区銀座 6-2-1 Daiwa 銀座ビル 8F TEL. (03) 3573-3601 FAX. (03) 3573-3604 http://cruise-vacations.co.jp
(大阪営業所) 〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町 1-5-6 堺筋本町アーバンライフ 816 TEL. (06) 6265-6610 FAX. (06) 6265-6609

サン・プリンセス Sun Princess

過去最大規模の日本発着アジアクルーズを実施 サン・プリンセスで、日本の美を再発見

プリンセス・クルーズが満を持して実施する「サン・プリンセス」の日本発着アジアクルーズ。祭りや世界遺産、温泉など、それぞれのコースが魅力あふれるテーマを持っている。日本発着とはいえ、船内の雰囲気はインターナショナルそのもの。世界水準のサービスで、日本の美を再発見する船旅に出かけてみよう。

自由にアレンジできるクルーズライフ

「好きなものを、好きなときに」をキーワードに、乗客のさまざまな要望にきめ細かく応えるパーソナルタッチのホスピタリティを実現したプリンセス・クルーズ。それを初めて具体化したのがサン・プリンセスだ。例えば、気分を変えて食事が楽しめるよう、サブレストランを設けたのもサン・プリンセスが初めてだった。テラス席でも味わえるブッフェ、ピッツェリアやステーキハウス、ハンバーガーやホットドッグが味わえるグリルなど、そのバラエティの豊富さでは未だに他の追随を許さない。さらに24時間無料のルームサービスに加え、シャンパン・ブレイクファストやシャンパン・ディナー(ともに有料)を自室のバルコニーで味わうこともできる。



バルコニー付き客室についても、その数を圧倒的に増やしたのはサン・プリンセスが最初だ。全975室ある客室のうちアウトサイドの客室が603室(約62%)、そのうちバルコニー付きが410室(アウトサイドの約68%)におよぶ。もはやバルコニー付き客室がスタンダードといえるだろう。また船内のインテリアにチーク材や真鍮、本草などの天然素材をふんだんに使っているのも大きな特徴で、コスト管理に厳しい最新鋭船よりも贅沢さを実感できるほどだ。

さらには一流のエンターテイナーによるブロードウェイスタイルのミュージカルやラスベガススタイルのステージショー、ピアノバーでの弾き語り、ダンスにディスコと、船上での楽しみも自由にチョイスできる。

また日本向けサービスとして、シェフをはじめ寄港地でのレクチャーには日本人の専門家が乗船予定。船内には日本語を話せるスタッフが50人程度乗船し、すべてのインフォメーションを日本語で行う。自宅から客室まで荷物を送り届ける宅配サービスも実施されるなど、あらゆるわずらわしさから解放されたクルーズが楽しめるのだ。

日本を知る魅力的なコースが勢揃い

そのサン・プリンセスが実施する7コース9航海のクルーズは、日本の伝統的なお祭りや世界遺産、温泉など、それぞれがテーマ性を持った内容となっている。日本発着のデビュークルーズとなるのは、ゴールデンウィークに合わせた日程で行われる「洋上のゴールデンウィーク日本・韓国9泊10日」(2013年4/27~5/6)。同コースでは「博多どんたく」の開催に合わせ、博多で1泊停留するというスケジュールも組まれた。続いて運航される「新緑の古都と釜山12泊13日」(2013年5/6~5/18)では、出雲大社の例祭と京都の葵祭の見学も可能なほか、白神山地(青森)、慶州歴史地

区ほか(釜山)、白川郷(金沢)、石見銀山(境港)、京都の文化財(舞鶴)の5カ所の世界遺産を訪れることもできる。「韓国・世界遺産の地と台湾・2大都市9泊10日」(2013年5/18~5/27、2013年6/23~7/2)は横浜発着と横浜発・神戸着が選べる点が嬉しい。「日本の温泉地めぐりと釜山9泊10日」(2013年5/27~6/5)では、有馬温泉(神戸)をはじめ道後温泉(松山)、指宿温泉(鹿児島)、湯布院(別府)など、日本の名湯を擁する寄港地を巡る。「龍馬ゆかりの地と韓国・世界遺産9泊10日」(2013年6/5~6/14)は坂本龍馬に縁のある高知と長崎を訪れるほか、済

州島と釜山の世界遺産も見学できるコース設定がなされた。続いての「北海道周遊とサハリン9泊10日」(2013年6/14~6/23、2013年7/14~7/23)では、大自然を満喫できるコースが自慢。知床および白神の両世界遺産を訪ねることもできる。そして日本を一周するコース設定が魅力の「日本周遊と釜山12泊13日」(2013年7/2~7/14)では、6カ所の世界遺産の地を訪

ねる点も忘れてはならない。

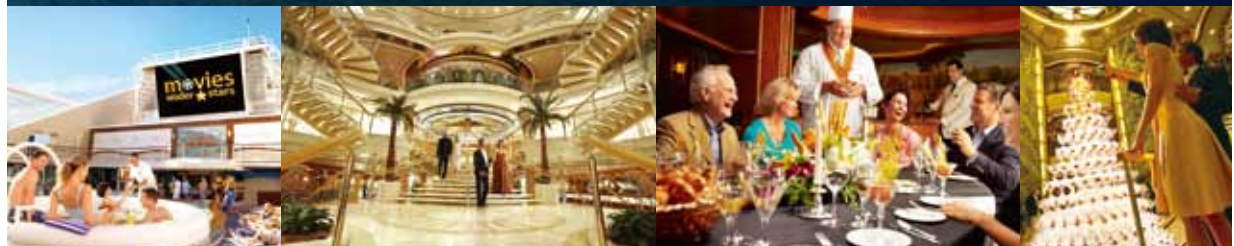
また、日本発着アジアクルーズの前後に行われる、ポジショニング・コースにも注目したい。往路はシンガポール/香港、香港/横浜の2区間に分かれ、帰路は横浜/香港、香港/シンガポールというコースをたどる。いずれもアジアを代表する都市を訪れる魅力的なスケジュールとなっている。

横浜発着
神戸発着

ようこそ、サン・プリンセスの世界へ

PRINCESS CRUISES
escape completely

日本発着アジアクルーズ



洋上のゴールデンウィーク日本・韓国 9泊10日 2013年4月27日(土)~5月6日(月・祝) ※広島、博多 各1泊停留 横浜▶広島▶長崎▶釜山▶博多▶横浜	169,000円~
新緑の古都と釜山 12泊13日 2013年5月6日(月・祝)~5月18日(土) ※金沢1泊停留 横浜▶青森▶釜山▶金沢▶境港▶舞鶴▶名古屋▶横浜	169,000円~
韓国・世界遺産の地と台湾・2大都市 9泊10日 2013年5月18日(土)~5月27日(月) 横浜発着 6月23日(日)~7月 2日(火) 横浜発/神戸着 横浜▶釜山▶済州島▶高雄▶基隆(台北)▶横浜▶神戸	124,000円~
日本の温泉地めぐりと釜山 9泊10日 2013年5月27日(月)~6月5日(水) ※神戸、松山 各1泊停留 横浜▶名古屋▶神戸▶(瀬戸内海)▶松山▶釜山▶鹿児島▶別府▶横浜	129,000円~

龍馬ゆかりの地と韓国・世界遺産 9泊10日 2013年6月5日(水)~6月14日(金) 横浜▶高知▶鹿児島▶長崎▶済州島▶釜山▶広島▶横浜	129,000円~
日本周遊と釜山 12泊13日 2013年7月2日(火)~7月14日(日) ※神戸2泊、広島1泊停留 神戸▶(瀬戸内海)▶広島▶釜山▶境港▶舞鶴▶金沢▶青森▶室蘭▶横浜	169,000円~
北海道周遊とサハリン 9泊10日 2013年6月14日(金)~6月23日(日) 7月14日(日)~7月23日(火) 横浜▶釧路▶(知床半島)▶コルサコフ▶小樽▶函館▶青森▶横浜	134,000円~

特典 2012年10月31日までに全額お支払いで
〈お一人様〉 **5,000~10,000円を割引!!**
※詳しくはお問い合わせください。

CARNIVAL JAPAN

株式会社カーニバル・ジャパン

〒104-0061 東京都中央区銀座6-2-1 Daiwa銀座ビル6階
TEL.03-3573-3610 FAX.03-3573-3607

<http://www.princesscruises.jp>

プリンセス・クルーズ Princess Cruises

常に新たなサービスを創造 最良のクルーズをプリンセスで

プリンセス・クルーズの魅力は、客船の大きさからクルーズのコース、食事やエンターテイメントなど船上生活のスタイルも、すべてお好みのまま、自由に選べる点にある。文字どおり、理想のバカンスはプリンセスの船上にあるのだ。



「チョイス」が魅力のプリンセス

日本をはじめ、世界中にファンの多いプリンセス・クルーズ。その秘密は、幅広い乗客のニーズに応えられるバラエティ豊かな「チョイス」にある。例えば現在プリンセスが運航するクルーズ客船は、大型船では訪れることのできない小さな港にも寄港できる3万総トンの小型客船から、星空の下で映画や音楽プログラムを楽しめる「ムービーズ・アンダー・ザ・スター」をはじめ多種多様な設備を持った11万総トン強のメガシップまで計16隻。これらの客船が、世界の7つの海を巡り、

寄港する港の数は300港以上にのぼる。さらに1週間以下のクルーズから109日間のワールドクルーズまで、日数も様々。どのサイズの客船を選び、どのエリアで乗るか、そして日数もよりどりみどりとというわけだ。

船上生活においても、多彩なチョイスが用意されている。クルーズの楽しみのひとつである食事に、プリンセスは「パーソナル・チョイス・ダイニング」と呼ばれるシステムを採用。これは好きな時に、好きなメンバーと、好みのレストランで食事が楽しめるというもの。メインダイニング以外にも、深夜までオープンしているブッフェ、ピッツェリア/グリルなども用意。

24時間無料のルームサービスと合わせ、その時の気分でチョイスできる。

また、一流のエンターテイナーによるブロードウェイスタイルのミュージカルからラスベガススタイルのステージショー、ピアノバーでの弾き語り、バンドの生演奏にあわせたダンスにディスコと、エンターテイメントも自由にチョイス。プリンセスなら、年の離れた友人と、あるいは家族3世代で乗っても、全員が楽しめるのだ。

時代に先駆けたサービス・スタイル

今やクルーズ客船には常識ともいえるバルコニー付き客室&バスタブ付き客室の数の多さ、好みに応じてチョイスできる食事やエンターテイメント、そして大人のためのリラクゼーション・スペース「サンクチュアリ」……。こうしたサービスはすべて、世界で初めてプリンセス・クルーズが導入したものだ。そして2013年には、プリンセス史上最大となる14万1,000総トンの3代目「ロイヤル・プリンセス」が就航する。全客室の80%がバルコニー付きになるなど、大幅なアップグレードを果たす。また、トップデッキには、海に突き出した「オーバー・ウォーター・シー・ウォーク」を設け、ガラス張りの通路からは空中に浮かぶような感覚を楽しむことができる。また、イタリアの広場をイメージしたピアッツァスタイルのアトリウム、さらに大画面となった「ムービーズ・アンダー・ザ・スター」など、時代に先駆けた多くの設備を導入する予定だ。



とはいえ、初めて外国船クルーズに参加する場合、どうしても言葉の壁を感じてしまうのも事実。プリンセスは、そうした乗客に向けてのサービスも充実している。全船のレストランで日本語のメニューを用意するほか、日本人の乗客が多いクルーズでは日本人コーディネーターが乗船。日本語の船内新聞を用意したり、日本語での船上説明会を催すなど、言葉に自信がなくても安心してクルーズが楽しめるように手伝ってくれる。また、ひとりでも多くの乗客にクルーズの楽しさを経験してもらうため、全船に車椅子対応の客室を用意するほか、パブリックスペースは段差のないバリアフリー設計となっており、年配者でも安心して乗船できる。

また、初めてでも乗船しやすいように、ヨーロッパでも1週間クルーズを実施するほか、ワインをテーマにしたロサンゼルス発着の米西海岸クルーズなどを企画。もちろん従来からのファンを対象にした2週間の北極フィヨルドクルーズやカナリア諸島クルーズなども行う。そして「サン・プリンセス」による日本発着クルーズも忘れてはならない。

クルーズ業界において、常にイノベティブな存在であり続けているプリンセス・クルーズ。今こそぜひ、その魅力を体験してみたい。



PRINCESS CRUISES
escape completely®

プリンセス・クルーズ

日常から解き放れた無為の喜び

プリンセス・クルーズ おすすめのコース

地中海とギリシャの島々 13日間

クラウン・プリンセス			
日次	入港	出港	寄港地
1	午後乗船	18:00	チビタベッキア(ローマ) イタリア
2	7:00	18:00	モンテカルロ モナコ
3	6:00	18:00	リボルノ イタリア
4	8:00	19:00	ナポリ イタリア
5	—	—	クルーゼンク
6	8:00	19:00	サントリーニ島 キリシャ
7	6:00	17:45	ピレウス(アテネ) キリシャ
8	1:00	18:00	ミコノス島 キリシャ
9	8:00	17:00	カタコロン キリシャ
10	7:00	16:00	コルフ島 キリシャ
11	9:00	18:00	スプリット クロアチア
12	9:00	船中泊	ベニス イタリア
13	午前下船	—	ベニス イタリア

乗船日～下船日

2012年8月16日(木)～8月28日(火)
2012年9月 9日(日)～9月21日(金)
2012年10月 3日(水)～10月15日(月)

クルーズ代金: 1,990ドル～

オーストラリア/ ニュージーランド 15日間

ダイヤモンド・プリンセス							
Aコース			Bコース				
日次	入港	出港	寄港地		入港	出港	日次
1	午後乗船	20:00	シドニー	オーストラリア	午前下船	—	15
2	—	—	クルーゼンク	—	—	—	14
3	9:00	18:00	メルボルン	オーストラリア	7:00	17:00	13
4	—	—	クルーゼンク	—	—	—	12
5	8:00	18:00	ホバート(タスマニア島)	オーストラリア	8:00	18:00	11
6~7	—	—	クルーゼンク	—	—	—	10~9
8	7:00	17:00	フィヨルドランド国立公園	(クルーゼンク)	9:00	19:00	8
9	9:00	18:00	ダニーデン	ニュージーランド	8:00	18:00	7
10	8:00	18:00	クライストチャーチ	ニュージーランド	8:00	18:00	6
11	7:00	18:00	ウエリントン	ニュージーランド	7:00	18:00	5
12	8:00	17:00	ピクトン	ニュージーランド	8:00	17:00	4
13	—	—	クルーゼンク	—	—	—	3
14	8:00	18:30	タウランガ	ニュージーランド	8:00	18:30	2
15	午前下船	—	オークランド	ニュージーランド	午後乗船	18:00	1

出港日～帰港日

2012年12月14日(金)～12月28日(金) 2012年12月28日(金)～1月11日(金)
Aコース 2013年 1月11日(金)～1月25日(金) Bコース 2013年 1月25日(金)～2月 8日(金)
2013年 2月 8日(金)～2月22日(金) 2013年 2月22日(金)～3月 8日(金)

クルーズ代金: 1,995ドル～

出発日より寄港地、寄港順、寄港時間が異なる場合があります。

キュナード・ライン Cunard Line

英国の夢と誇りをのせて 船旅の歴史は、キュナードの歴史

英国王室とのゆかりの深さゆえに、女王の名前を船名に冠することができる世界で唯一の船会社キュナード。英国流のマナーとサービスで、創業以来170年以上にわたり世界のクルーズファンを魅了し続けてきた。キュナードが運航する3隻の客船で、歴史が織りなす伝統とエレガンスを体験してみよう。

究極のエレガントを実感

1840年の創業以来、数々の伝説を生み出してきたキュナード。世界で初めてヨーロッパと新大陸を結ぶ大西洋横断の定期航路を開設した同社は、その後も洋上初のスイートルームやジム、世界一周航海など、現在の船旅に必要な要素を次々に生み出し、そして170年以上の時をかけて自らを磨き上げてきた。英国らしさを感じさせる優雅なインテリア、配慮の行き届いた手厚いサービス、魅力的なエンターテインメントなどにより、今日まで途切れることなく世界のセレブリティを魅了し続けてきた。こうしたキュナードの伝統は、現在就航中の3隻の客船にも脈々と引き継がれている。



2004年に就航した「クイーン・メリー2」(QM2)は、洋上で最大のダンスフロアを持つボールルームや洋上初のプラネタリウムなど、ロングクルーズでも飽きることのない設備を備えた15万総トンのフラッグシップ。2007年に就航した「クイーン・ヴィクトリア」(QV)は、美しい流線型のグランド・ステアを擁する3層吹き抜けのグランドロビー、ヴィクトリア朝時代のロンドンのショッピング街を模したロイヤル・アーケードが自慢だ。そして2010年に就航した「クイーン・エリザベス」(QE)は、1940年に就航した初代と同じ「ガーデン・ラウンジ」と名付けられたドーム型ガラス天井のサンルームやミッドシップ・バーなどをもち、日本でも高い人気を誇る。

キュナードらしさの特徴のひとつに、他社のクルーズ客船にはないクラス制の存在が挙げられる。より質の高いサービスを求める乗客のニーズに応えるため、船により3~4クラスが設けられ、クラス毎に使用するレストランが決められるほか、専用のスペースも用意。最上級の客室カテゴリーに当たるクイーンズ・グリルとそれに続くプリンセス・グリルは「グリル・クラス」と呼ばれ、全室バスタブ付きのスイート。グリル・クラス専用のラウンジやテラスが用意され、ゆったりとしたスペースで食前酒などを楽しむことができる。食事はそれぞれのグリル(レストラン)による1回制で、コンシェルジュ・サービスに加え、クイーンズ・グリルの客室にはバトラー・サービスも付き、荷物の荷ほどこからプライベート・パーティーの手伝いまで、さまざまなことを依頼できる。



キュナードだからこそそのサービス

「スタンダード・クラス」に当たるブリタニア・クラブ(QVは除く)とブリタニア・レストランの客室も、洗練された居心地の良い空間を確保。ブリタニア・クラブは全室バルコニー付きで、好みの硬さの枕が選べるなど、アメニティーも充実している。さら

にブリタニア・レストランはバルコニー付き客室からインサイド(内側)客室まで幅広く用意されているため、好みと予算に応じて自分に合った部屋を選ぶことができる。なお、レストランについてはブリタニア・クラブは1回制、ブリタニア・レストランはディナーのみ2回制での利用となる。両クラスとも、乗船時にはウェルカム・スパークリングワインのハーフボトルが用意されるなど、スタンダード・クラスといえどもキュナードの名にふさわしい質の高いサービスが提供されているのだ。

世界一周に代表されるように、ロング

クルーズのイメージが強いキュナードだが、実は5日~10日前後のショートクルーズを数コース実施している。短くても終日航海日を設けるなど、船上生活も楽しめる内容だ。中でもQM2の「秋のショートクルーズ6日間」(10/9~10/14、サウサンプトン発着、1245米ドル~)、QEの「カナリア諸島とイベリア半島11日間」(12/9~12/19、サウサンプ

トン発着、1695米ドル~)などは、日本からも参加しやすい内容といえる。

キュナードの歴史は船旅の歴史そのもの。つまり、これらの客船に乗ることは、船旅の歴史を追体験するということだ。他では望めない旅を楽しめる。

キュナード・ライン



英国の伝統が紡ぐ3隻の女王船

客船の黄金時代から引き継がれてきた究極のサービス、最新鋭かつ洗練された女王の船3隻がワールドクルーズをはじめ、世界各国をめぐる優雅な船旅に誘います。

英国女王の名を冠することを許された海の女王

QUEEN VICTORIA

クイーン・ヴィクトリア

90,000トン 乗客定員1,990人
ヨーロッパを中心に世界各国をクルーズ

QUEEN MARY 2

クイーン・メリー2

151,400トン 乗客定員2,592人
大西洋横断、ワールドクルーズなど

QUEEN ELIZABETH

クイーン・エリザベス

90,400トン 乗客定員2,068人
ヨーロッパを中心に世界全域をクルーズ

CRUISE VACATIONS, INC.

キュナード・ライン日本地区販売総代理店 株式会社クルーズバケーション

〒104-0061 東京都中央区銀座6-2-1 Daiwa 銀座ビル6F TEL:(03) 3573-3601 FAX:(03) 3573-3604 <http://www.cruise-vacations.co.jp>

シーボーン・クルーズ Seabourn Cruises

シンプルでモダンなインテリア、エレガントなパブリックスペース、くつろぎに満ちた客室、そしてゲストを名前でお呼びするスタッフたち……。一切のわずらわしさから解放された究極のバカンスを過ごすなら、シーボーン・クルーズに尽きる。一度乗船し、その魅力を知ればリピーターになること間違いなしだ。



まさに洋上のサンクチュアリ 期待以上の感動体験シーボーン・クルーズ

いつものプライベート・クラブのように

シーボーン・クルーズが総トン数1万トン、乗客定員208名の小型ラグジュアリー・シップ「シーボーン・プライド」によるサービスを開始したのは1988年のこと。その後就航した「シーボーン・スピリット」「シーボーン・レジェンド」の姉妹船を含め、エレガントなインテリアとホスピタリティあふれるスタッフのサービスは高い評価を得て、瞬く間に世界中のクルー

ズファンから賞賛されるようになった。客室はすべてスイートで、その約97%に大理石製のバスタブが備わり、ベッドにはエジプト綿のリネンと羽毛布団&枕を使用しているため、ロングクルーズに乗船したとしてもゲスト(乗客)はゆったりとくつろぐことができる。室内には生花が飾られ、テーブルには新鮮なフルーツ、冷蔵庫には好みの銘柄のソフトドリンクやアルコール類を用意。3つのレストラン、ショールoungeを含めた4つのラウンジとバーを設けたほか、スパ、カジノ、図書室など、大型のクルーズ客船に匹敵するような同様の

施設を装備している。また船尾には格納式のウォーター・スポーツ・マリナーを持ち、海の綺麗なエリアでは海水プールで泳いだり、カヤックや各種マリンスポーツを楽しむことができる「マリナー・デイ」を実施するなど、小型船でありながらアクティビティーも充実しているのが特徴といえる。

続いて2009年から順次就航を開始した3万2000総トンの新型客船シリーズ「シーボーン・オデッセイ」「シーボーン・ソジャー」「シーボーン・クエスト」の3隻は、従来の1万総トンの客船シリーズに



比べ、船体を約3倍の大きさにしたものの、乗客定員を約2倍の450名に抑えることで、ひとり当たりの船内スペースを拡充し、さまざまな施設を充実させることで究極のラグジュアリー客船という評価を得た。特にデッキ7後方に設けられた「シーボーン・スクエア」は、ゲストと1対1で応対するコンシェルジュ・デスクを中心に、バーやライブラリー、パソコンデスクなどを用意した新しいコンセプトの社交場として好評だ。

リピーターでも飽きないコース設定

シーボーンが小型船を選んだ理由は、大きく2つある。ひとつは最高のサービスを提供するためだ。サービスクルー



は、ゲストを名前呼び、食事やドリンクの好みなどそれぞれの嗜好を覚えてもてなしてくれる。10万トンを超える客船では決して実現できないレベルだ。また、シーボーンの船内ではオールインクルーシブなサービスが提供されている。ソフトドリンクからアルコール類、食事時のワイン、そして客室内に備え付けられているバーや冷蔵庫の中身まで飲み物は無料で提供されている(一部のビンテージを除く)。わずらわしいチップも一切不要で、文字どおりキャッシュレスで船旅を楽しむことができる。シーボーンならではの心遣いのひとつといえよう。

もうひとつは、大型船では寄港できない小さな港や島を訪れることで、人気の観光地から神秘的な秘境などを盛り込んだ魅力的なクルーズコースを設定することができるからだ。春から秋にかけてのヨーロッパシーズンには、6隻ともエーゲ海や地中海、バルト海などに就航中だ。続いてシーボーン・オデッセイはアジア、オセアニアへ、シーボーン・ソジャーはカナダや南米に、シーボーン・クエストはカリブ海、ワールドクルーズに就航。一方、シーボーン・プライドはアジアやインド洋に、シーボーン・スピリットはカリブ海へ、シーボーン・レジェンドはカリブ海の秘境巡りクルーズに就航する。

カリブや地中海の島々に寄港した際には、美しいビーチでのキャビアやパーベキューを満喫する「キャビア・イン・ザ・サーフ」が催される。シーボーンの特徴ともいえるアクティビティーで、これを楽しみにコースを選ぶゲストもいるほどだ。また、寄港地のひとつトルコのエフェソスでは、トーチライトに照らされた古代ローマ遺跡の中で、シーボーンのゲストだけを招いて行われるクラシックコンサート「エフェソスの夕べ」が催される。シーボーン・クルーズでの船旅は、生涯忘れられない思い出となるだろう。

究極のラグジュアリー体験は、シーボーン・クルーズが提供する全室スイート&最高峰のサービスで。



最良のくつろぎは、最上の船がもたらす。上質な時間と旅をあなたへ



シーボーン・クルーズで出会えるのは、まるで我が家にいるようにくつろげる最上級のサービスです。お客様と乗組員の比率はほぼ1対1できめ細やかにおもてなします。著名シェフによる美食メニューは数々の賞を受賞。時間も場所も気の向くままに、お好きな場所で食事ができます。客室は全室スイート、クルーズ代金はチップやアルコール、港湾税なども含まれたオール・インクルーシブです。海外の旅行雑誌や格付けガイドでも最上級の評価を得ているラグジュアリーなシーボーンの旅をぜひご体験ください。

—3万トンクラス—
(3隻/乗客定員450名)
シーボーン・オデッセイ
シーボーン・ソジャー
シーボーン・クエスト

—1万トンクラス—
(3隻/乗客定員208名)
シーボーン・プライド
シーボーン・スピリット
シーボーン・レジェンド

CRUISE VACATIONS, INC.
シーボーン・クルーズ・ライン 日本地区優先販売代理店
株式会社クルーズ パッケージ

〒104-0061 東京都中央区銀座 2-6-1 Daiwa 銀座ビル 6F TEL (03)3573-3601 FAX (03)3573-3604
<http://www.cruise-vacations.co.jp>

ここが
知りたい!

クルーズの「服装」最新事情

「服装が大変そうだからクルーズにはいかない」。もう、こんな考え方は古い。いまや、クルーズの服装コンセプトも多種多様。乗客の好みに合わせてクルーズを選べる時代がやってきた。

Profile

上田寿美子(うえだすみこ)

クルーズ評論家
日本旅行作家協会会員



乗船取材や船上セミナーの講師として、年間約100日を船上で過ごすクルーズ専門のライター兼評論家。カルチャーセンター、百貨店、旅行会社、クルーズ船等でクルーズ講演の講師も務める。著書に「豪華客船はお気に召すまま」(情報センター出版局)、世界のロマンチッククルーズ」(弘済出版社)など。日本外国特派員協会会員。

フォーマル不要の客船が多数登場 もっと気軽にクルーズを楽しもう!

日本人にクルーズの敷居を高くしている一因に「服装」がある。特にフォーマルが心配な人が多いようだ。ところが、今年4月のザンダム日本寄港クルーズに乗船した時、船長から「先日のフォーマルナイトの日本人の服装は素晴らしかった。最近になく豪華な夜となった」と言われた。まず、日本人の装いはこのように海外から評価されているの



神戸港に停泊中の「ザンダム」

で、ぜひ心配せずにクルーズにでかけてもらいたい。一方この事は、すでに外国人客は服装に関してもっと気軽に乗っていることも表している。

たしかに最近、世界的にクルーズの服装は厳密でなくなる傾向にある。また、各船の服装コンセプトも多様化し、乗客が好みに合わせてクルーズを選べる時代にもなってきた。ところが残念ながら、まだ日本ではこの傾向があまり知られていない。

日本では3種の夜のドレスコード(フォーマル、インフォーマル、カジュアル)がよく知られているが、最近では、これに加え「スマートカジュアル」または「エレガントカジュアル」と言われるカテゴリーが増えつつある。

例えば、高級路線を掲げるアザマラ・クラブ・クルーズやオーシャニアクルーズでは、フォーマルナイトは設けず、連日エレガントカジュアルのドレスコードを採用している。

以前はフォーマルがあったラグジュアリクルーズのリージェント・セブンシーズ・クルーズでも、最近ではほとんどエレガントカジュアルとなった。このようなクルーズは、上質感がありながら正装が必要ない、新しい選択肢といえる。

「エレガントカジュアル」ってなに?

では、最近よく聞く「エレガントカジュアル」とはどんな服装だろうか。これはとても幅が広く、男性ならネクタイなしのジャケットあたりを中心に、実際にはスーツにネクタイ着用から、中にはセーターだけでまとめている人も。女性もロングスカートからパンツにブラウスなど千差万別。

実際に見てみると、各自がその時の気分や都合に合わせている。例えば、友人のパーティーがあればドレスアップするし、忙しかった日は簡単な格好だ。えてして、こういう高級客船のゲストは「タキシード卒業組」が多く、今さら「皆でタキシードを着てクラス意識を味わう」ことにこだわらない。他人の服装をとかやく言うような無粋な雰囲気でもない。

次にフォーマル、インフォーマル、カジュアルの3種のドレスコードがある船でも、フォーマルナイトの日数を減らす傾向



エレガントカジュアルを取り入れているアザマラ・クラブ・クルーズで、夕食時の「船長テーブル」に招かれたメンバー。思い思いのお洒落を楽しんでいる。(前列右から2番目が筆者)

にある。以前は2週間のクルーズで3回以上フォーマルを設定していたラグジュアリクルーズも、最近では1~2回が主流になっている。

タキシードの着用率も減る傾向だ。今年の春に乗船したラグジュアリ客船の「シルバershadow」では、7泊のクルーズでフォーマルが2回あったが、タキシード率は約4割。女性客も本格的なイブニングガウンは2割程度だ。1994年に同社のシルバークラウド、95年にシルバークラウドに乗船した時は、7割近くがタキシードだったのを振り返ると、昨今の服装事情はかなり変化したといえる。

70年代は派手なタキシードと毛皮が人気

1970年代と現在のクルーズを比べてみると、当時は「衣・食・社交」が船上生活の中心で、いま以上に「着る」ことは大きな楽しみだった。

1972年、「浮かぶ美術館」と呼ばれた先代ロッテルダムの世界一周に区間乗船したが、横浜出航翌日からハワイに着くまで、ドレスコードは毎晩フォーマル。それを嫌がるどころか、おおいに楽しむ乗客たちで船内は豪華絢爛。タキシードは黒ばかりではなく色物や、柄物を着る人も多かった。いまだにホーランド・アメリカ・ラインの名ホテルマネージャーとして語り継がれるギー・アドリアンセン氏は、紺色のシルクのタキシードを貫録たっぷりに着こなしていた。

また、現在はほとんど見なくなった毛皮も70年代の船上では人気アイテム。し



英国伝統の船旅を演出するため、あえてフォーマルナイトを堅持している船もある。写真は「サガルビー」のフォーマルナイトの様子。

かも、銀髪にはサファイアミンク、栗毛にはパステルミンク、黒髪にはブラックミンクと、髪の色に合わせたミンクストールと、イブニングガウンの取り合わせは目も眩むほどお洒落。そんな華やかな乗客と暮らした船旅は、まさに夢の世界だった。そして、このとき感じたことは船のフォーマルは「正装」というより「盛装」。規則に縛られた式服ではなく、華やかに旅を楽しむためのものだと感じた。

振り返れば、当時の夜の服装表示では「SUGGESTED DRESS」(服装の示唆、提案)等の柔らかい表現が多く、規則を連想させる「ドレスコード」という言葉はあまり使われていなかった。そして、各々の個性が光るお洒落が素敵だった。

時代の変化に合わせて服装も「自由化」

それではなぜ最近の服装は軽減化したのか。第一の要因は、陸上のライフスタイルの変化だ。現代人の装いは60年代、70年代と比べて大幅にカジュアル化した。昭和の頃、一流ホテルの夜は上着とネクタイが必須。婦人のズボンも御遠慮下さいというホテルが多かった。しかし今、同じホテルに行っても、ノーネクタイやセーターの人も。現代ではパンツと呼ばれる婦人のズボン姿も多い。

加えて、陸上は個人主義の時代となった。それに合わせクルーズでも、個々の乗客の嗜好を一層重視する傾向にあり、服装も自由化が進んだ。特にその傾向が強いのが小型ブティックやラグジュアリ客船で、より乗客の好みを尊重するため、服装の裁量もかなりゲストに委ねている。つまり、タキシード着用率が高い船ほど高級とも言い切れない時代になったのだ。

次に、最近の新造船の大型化等に伴い、乗客数が増え、客層が広がったこと。更に、船上の娯楽が多様化し、着る



軽装で行けるビュッフェスタイルのディナー

こと以外にも楽しみの幅が格段に広がったことも要因のひとつになっている。

そして、2001年の9.11テロ以降、飛行機の荷物制限が厳格になり、荷物の重量超過にも厳しく料金がかけられるようになったこと。その結果、フライ&クルーズでは大きな荷物を持ってゆくことが難しくなった。この様に服装変化の背景には時代の流れがある。

その一方で、昔ながらの姿勢を守るクルーズもある。例えばキュナードラインの社長ピーター・シャンクス氏は、クイーンエリザベス就航記者会見で、「当社は昔も今もフォーマルを大切に考えている」と語っている。また、1973年にヴィスタフイヨルドとして誕生したサガルビーは、今年の世界一周でも圧倒的なタキシード着用率を誇る、英国伝統の船旅を行った。格式あるフォーマルナイトを望むならこういう客船も選べる。

レンタル利用や自分に合ったチョイスを

最近ではフォーマルウェアを持っていない人にも、クルーズを十分に楽しむ方法がある。例えば、毎晩軽装でゆるゆるカジュアルディナーがある船を選ぶのがその一つ。



フォーマルを楽しむならレンタルする手も。小物やシャツなど一式付いている。

さらに、レンタルタキシードがある船も便利だ。例えば、カジュアルクルーズのロイヤルカリビアン社では、7泊のうち2回フォーマルがあったが、タキシード上下と小物セットに2枚のドレスシャツが付いて、貸出料は89米ドル(約7200円)だった。初日に貸出コーナーに行くと、テラーが採寸して体に合ったものを部屋まで届けてくれる。終わった後も、部屋に置いておけば回収に来てくれるシステムは、日本人にも利用しやすい。これなら重い荷物を持たずに、華やかなフォーマルナイトが楽しめる。

このように、現代のクルーズは服装の点でも多様化しており、一概に「フォーマル、インフォーマル、カジュアル」といった言い方では区切れなくなっている。消費者のニーズにあった客船を提案できることが、今後のクルーズ販売の鍵でもあり、「クルーズの壁」を取り払うことにもつながるだろう。

お洒落する楽しみも、しない楽しみも、お気に召すままの「クルーズ服装新時代」が海外ではもう始まっているのだ。

ロイヤル・カリビアン・インターナショナル Royal Caribbean International

客船初のスケートリンクやロッククライミングを搭載した画期的な客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」が、いよいよ日本にやってきた。船体の大きさを活かした多彩さと、高品質だが気取らずに乗ることのできるクルーズは、初心者やハネムナー、家族連れに最適な客船だ。

日本に新クルーズ時代を運ぶ 夢の巨大客船 ボイジャー・オブ・ザ・シーズ&マリナー・オブ・ザ・シーズ

欧米で主流の巨大客船によるクルーズ時代が、いよいよアジアにもやってきた。その旗手を務めるのがロイヤル・カリビアン・インターナショナルの「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」だ。

同社は現在、世界最大客船を2隻所有する世界最大手のクルーズ会社で、巨大客船の王道を歩んできた実績がある。今年5月には、アジアクルーズに就航するためボイジャー・オブ・ザ・シーズがシンガポールに初入港。それに合わせて、シンガポールの新客船ターミナルも仮オープンするほどの大歓迎を受けた。

1999年、当時の史上最大客船として誕生したボイジャー・オブ・ザ・シーズは、まぎれもなくクルーズ新時代の扉を開けた客船である。なぜなら、この船は大きさをかき立て、客船史上初の斬新な設備をいくつも搭載し、人々の想像を超えた未来型客船として夢のクルーズを実現したからだ。

建造計画の段階からボイジャー・オブ・ザ・シーズは新しい楽しさを徹底的に追求した。たとえば、客船史上初のアイススケートリンクを造ったこと。前代未聞の快



挙を記念し、ボイジャー・オブ・ザ・シーズのゴッドマザーはオリンピック・フィギュアスケート2大会連続金メダリストのカタリナ・ピットが務めた。そして、処女航海前に行われた滑り初めで妙技を披露したカタリナ・ピットが「船の上とは思えないほど素晴らしいスケートリンク」と絶賛したほどの出来栄となった。大成功を取った客船のスケートリンクは、その後、同社の計10隻の客船に搭載される人気の施設となった。

船上初のロッククライミングの壁も話題をよんだ。煙突の側面を利用したロッククライミングは、子供からミドルエイジまでが挑戦する人気アトラクションとなり、今や同社のシンボリック存在になった。



一方、この船は豪華客船にふさわしい優雅な面も持っている。メインダイニングルームは、金色の柱と大型シャンデリアがきらめく3階建てで、宮殿のような美しさを見せる。椅子に座れば、ウェーターが挨拶と共にナプキンを膝にかけてくれる行き届いたサービス。夜のディナーは、チョイス式のフルコースメニューで、エビのカクテル、クラムチャウダー、ローストビーフ、スフレなどのご馳走尽くしだ。



そして、ハネムナーにもお勧めのロマンチックな場所といえば、大人専用プールエリアのソラリウムだ。プールやジャグジーにはギリシャ風彫刻が並び、まるで古代浴場へ迷い込んだようなムード。横に並ぶデッキチェアに寝そべれば、陸上の喧騒から離れた優美な時間が広がってゆく。

全長120メートルもあるロイヤルプロムナードは、お洒落なショッピングモール。両側にはブティック、宝飾店、パブ、シャンパンバーなどが並び、時には、パレードも出沒。シュレックやカンフー・パンダなど、ドリームワークスの人気キャラクターが繰り出し、おとぎの国の大通りへと変身する。

このように、どこもかしこも船の上とは思えない斬新さを持つボイジャー・オブ・ザ・シーズは、選択肢が豊富でワクワクするクルーズを確立したのだ。



アジアクルーズに向けて 更に魅力を倍増

そんなボイジャー・オブ・ザ・シーズが、初のアジアクルーズを開始するにあたり、アジア仕様に改装した点も多い。そのひとつ、エンターテインメントは、英語が不得手なゲストも考慮し、アクロバット、ダンス、マジックなどビジュアルで楽しめるプログラムを中心に構成。アジアのファミリーも楽しめるよう、大劇場スカラシアターに3Dの設備も導入し、メガネをかけて飛び出す映画も鑑賞できるようにした。料理は、全体の約10%程度だったアジ

ア料理を30~35%に増やした。種類も寿司、天ぷら、茶碗蒸しをはじめ、中華料理やカレー、タイ料理などを取り揃える。夜のディナーではアジア料理で組んだコースも登場。さらにルームサービスでもアジアの味覚を用意する。



1泊1万円代から 実現する極上の旅

今年6月には、ついにボイジャー・オブ・ザ・シーズが日本に初寄港した。福岡や神戸で行われた見学会では、多くの旅行関係者から「予想以上に豪華で多彩な客船」と驚きの声があがった。

ボイジャー・オブ・ザ・シーズは、コストパフォーマンスが高い点も特徴のひとつだ。1泊当たり1万円代~の手ごろな乗船料金には、船上のショーも、プールも、スケートも、朝昼晩の食事代も含まれている。また、ロイヤルプロムナードの一面にあるカフェでは、24時間ピッツアやサンドイッチが無料で食べられる。

この船はナイトライフもお洒落だ。ジャズバー、ゴルフバー、ピアノバーなど10か所以上もバーがあり、ジャズやラテン音楽の生演奏も洗練されている。飲み物は有料だが、ミュージックチャージは無料だ。夜遅くまで飲んでいても、帰りのタクシーの心配はいらない。



客室は全部で1557室。そのうち707室がバルコニー付き。客室の掃除は1日2回行われる。利便性も重視し、全室に配置したフラットTVでは、リモコン操作で会計チェックや、ルームサービスも注文できる。

そして、一度チェックインしてしまえばあとは体と荷物ごと運んで行ってくれる快適さも魅力。しかも、ボイジャー・オブ・ザ・シーズほど施設の整っているホテルは地上にも滅多にないだろう。

マリナー・オブ・ザ・シーズも アジアに参入 2013年は2隻体制でより強力に

来年になると、ボイジャー・オブ・ザ・シーズの姉妹船「マリナー・オブ・ザ・シーズ」もアジアにやってくる。ボイジャー・オブ・ザ・シーズには他に4隻の姉妹船があるが、マリナー・オブ・ザ・シーズ

はその末妹として2003年にデビュー。ボイジャークラスの集大成ともいえる船で、高齢者や障害を持つゲストにも利用しやすいようバリアフリーを重視して建造された。そこで命名式のゴッドマザーには、車いすマラソンの女王でアトランタとシドニー両パラリンピック金メダリストのジン・ドリスコールが選ばれた。

また、マリナー・オブ・ザ・シーズの自慢は、現代芸術の巨匠ロメロ・ブリトーのカラフルなポップアート作品を飾ったプールエリアである。スケートリンクや豪華なメインダイニングなどの充実した施設は姉のボイジャー・オブ・ザ・シーズを踏襲。マリナー・オブ・ザ・シーズのアジアクルーズは2013年6月からを予定している。

来年は巨大客船が2隻体制になり、ますます本格的なクルーズ時代がアジアに到来するにちがいない。

日本発着計画も進行中 初心者や家族連れも 気軽に乗れるクルーズを

そして、現在計画なのが2013年のボイジャー・オブ・ザ・シーズによる日本人をターゲットにした日本発着クルーズだ。ロイヤル・カリビアン・インターナショナルは、海外の船会社の中でもいち早く2010年にレジェンド・オブ・ザ・シーズによる横浜発着クルーズを手掛けた実績があり、同年の「クルーズ・オブ・ザ・イヤー」のグランプリも受賞している。そこで、先駆者ならではのノウハウとボイジャー・オブ・ザ・シーズの大きさを活かした、日本人に乗りやすいクルーズを計画 중이다。

日本語の船内新聞やメニュー、和食やアジアの味覚も取り入れた料理の数々。言葉の壁を越えて楽しめる催し物。さらに日本人コーディネーターも乗船し、クルーズの初心者にも安心して乗れる本格的なクルーズになることが予想されている。また、飛行機嫌いの人には海外旅行を体験する絶好のチャンスにもなる。

ボイジャー・オブ・ザ・シーズのアジアクルーズの初代マスター(船長)を務めたチャールズ・タイゲル氏は、「この船は6カ月のベビーから90歳のゲストまで誰もが楽しめる」と語っている。確かに年齢別子供プログラムもあるので、家族旅行にも最適だ。パパやママも、時には子供を預けてエステやパターゴルフなどでのんびりできる。乗船料金も手ごろなので親子三世代の旅にもぴったりだ。



ついに日本でも、楽しくて多彩なスーパーメカシップ時代が幕を開ける。ボイジャー・オブ・ザ・シーズは、これまで日本では体験できなかったスケールの大きな夢のクルーズを実現するだろう。



THE SEA IS CALLING
ANSWER IT ROYALLY™

ロイヤル・カリビアン・インターナショナル 13万8千トン客船 ボイジャー・オブ・ザ・シーズ

アジア
オセアニア
クルーズ



- 👉 空き状況と料金がすぐわかる!
- 👉 日本語の状況も満載!
- 👉 バーチャルツアーで船内探検!



詳細は日本語予約サイトを!

<http://www.royalcaribbean.jp>

ロイヤル・カリビアン・インターナショナル 日本総代理店
株式会社 ミキ・ツーリスト

クルーズセンター

(ご旅行代理店様用) TEL. (03) 5404-8813 〒105-0013 東京都港区浜松町1-18-16 住友浜松町ビル
(個人のお客様用) TEL. (03) 5404-8825



アジア最大級の旅の祭典

JATA 旅博2012

今年も「クルーズの旅」コーナーが登場!
昨年よりエリア倍増!本気の「クルーズの旅」コーナー22小間展開!
全ての業界人のご来場をお待ち申し上げております。

公式ウェブサイト <http://www.tabihaku.jp>



9月21日(金) - 23日(日) / 3日間

最新のクルーズ情報収集の絶好の機会 東京ビッグサイト 東1・2・3ホール
・企画のヒント、新しいビジネス、ネットワーク構築に

国際商談会	: 9月20日(木)	※商談会でのバイヤー登録が必要です。詳細は、 http://www.jata-jts.jp まで
業界日・プレス日	: 9月21日(金)	11:00 から 20:00 まで
一般公開日	: 9月22日(土・祝)	10:00 から 18:00
	: 9月23日(日)	10:00 から 17:00

「クルーズの旅」コーナー出展予定会社(2012年7月1日現在) ※事前登録または(8月中旬より)は出展者紹介でご入場いただけます。JATA会員旅行会社の役員・従業員の方は一般公開日も無料でご入場いただけます。プリンセス・クルーズ、社団法人日本外航客船協会、イギン株式会社、ロイヤル・カリビアン・インターナショナル、重慶新世紀クルーズ、スタークルーズ日本オフィス、株式会社MSCクルーズジャパン ※小間番号順

クルーズ旅行取消費用補償特約 海外旅行保険

「申し込んだクルーズ旅行をキャンセルしたいけれど、キャンセル料が…」そんなお客様にクルーズ旅行取消費用補償(特約)をセットでお勧めしておくと、キャンセル料が保険金として支払われます。詳しくは、東京海上日動火災保険株式会社、AIU 保険会社、エース損害保険株式会社、ジェイアイ傷害火災保険株式会社にお問い合わせください。

事例1 支払保険金額 **120万円**
ご夫婦 ヨーロッパクルーズ1か月の例
旅行直前に旦那様が带状疱疹により10日間の入院。65万円のキャンセル費用でしたが、加入されていたクルーズ旅行取消費用補償特約(保険金額60万円)で対応、大変喜ばれました。

事例2 支払保険金額 **74万円**
ご夫婦 米クルーズ 16日間の例
旅行前に階段から落ちて救急車で搬送。高額のキャンセル費用はこのクルーズ旅行取消費用補償特約で支払い。現在は回復してまいりました。療養も兼ねてゆっくり旅行に行きます。ありがとうございました。

旅行業者賠償責任保険 (旅行会社向け保険)

旅行業務の遂行に起因して発生した不測の事故について負う法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害に対して、保険金をお支払いいたします。ツアーガイド等が旅行者に直接的にケガを負わせた場合などのほか、事故を起こしたクルーズ業者の選定過程において、旅行業者に過失が認められることもあり、企業防衛の手段として有効です。詳しくは、株式会社ジャタ Tel.03-3504-1751 にお問い合わせください。